



農村・コミュニティ維持拠点

## 都市・農村交流による棚田の保存と

大山千枚田棚田（千葉県鴨川市）

### ■ プロジェクト実現のプロセス

全国に千以上あるといわれる棚田の多くで荒廃が進むなか、千葉県鴨川市では、大山地区住民の発意により、江戸時代以前から山間部の地形を巧みに利用して耕作されてきた「棚田」を舞台に、都市と農村の交流によっ

て、自然と人々の営みが育んできた貴重な文化的景観を保存しようという活動が始まった。

平成9年に所有者、鴨川市民、市外在住者などによって「大山千枚田保存会」が結成され、「棚田の保存と活用」への具体的な取り組みが開始した。

大小375枚の田んぼは、平成11年

に農林水産省の「日本の棚田百選」に認定され、同14年には千葉県指定名勝となり貴重な文化財としての価値付けもなされた。さらに、同15年には「鴨川市棚田農業特区」に、「大山千枚田保存会」はNPO法人にそれぞれ認定された。

現在は、地元農家協力により「棚





山間部の地形を巧みに利用して耕作されている大山千枚田の棚田



活動拠点の棚田倶楽部の建物



自然の地形と稲作が織りなす芸術的ともいえる美しい風景

## 地域コミュニティの維持

田オーナー制度」が導入され、景観保全や都市住民に農業体験の機会を提供し、地域活性化の核としてさまざまな活用がなされている。

### ■ 主体の取り組み

棚田オーナー制度をはじめ種々のメニューを取り揃え多角的に活動を展

開している。

#### 棚田オーナー制度

1区画（約100m<sup>2</sup>）の棚田を借り受け（会員制）、オーナー自らが、田づくり、田植え、稲刈り、脱穀まで7程度の作業を実施するもので、収穫した米はオーナーが取得する。作業参加・交流型で年会費3万円。

#### 棚田トラスト制度

近隣の棚田を借り受け、年2回程度共同作業で稲作を行い、収穫した米を配分するもの。農業体験・飯米確保型で1口（100m<sup>2</sup>）で年会費4万円。

#### 大豆畑トラスト制度（綿藍オーナー制度）

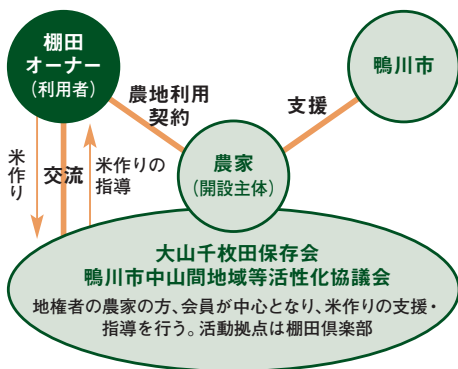
会費を払い、種まきから収穫までの作業を行う。収穫した大豆は10aあたり30口で分配されるほか、この大豆をもとに味噌・納豆・豆腐づくりなども行われる。綿藍も同様で、綿を育てて紡いで織り、藍を育てて藍染めを行う。



## ■ 米作りの主な作業

3月	うね 畦ぬり	畦を整備し、 田の水漏れを防ぐ
4月	代かき	田植え前に、 田の水面下の土を耕す
5月上旬	田植え	苗を田に植える。苗は用意 する。作る品種はコシヒカリ
6～7月	草取り	田に生えた苗以外の雑草を 取り除く
6～9月	畦刈り	畦に生えた雑草を刈り取る
9月上旬	稲刈り	稲を刈って束ね、 天日乾燥する
9月中旬	もみ 脱穀・籾すり	稲穂から籾を分離させ 玄米にする
10月～	荒起こし	来年に備えて田を耕す
収穫祭	10月上旬の日曜に、収穫を祝うイベントを 開催する。お米の引き渡しもこの時に行う	

## ■ 鴨川市の棚田オーナー制度



左／棚田の活動を通して八王子から移住してきた井上さん 右／NPO法人大山千枚田保存会理事長の石田三示さん

## 酒づくりオーナー制度

酒米を育て、とれた米で酒造会社に酒造りを依頼し、できあがった日本酒を会員に配布する。会員は田植え、草刈などの農作業に参加する。

## 自然体験活動

植物や小動物など、四季折々に多様な生物が見られる千枚田や周辺の里山で自然観察やウォーキングなどを実施する。

## 家づくり体験塾

建築を体験してみたい人を対象に、空家となった古民家を使って、家づくりの基礎と改修技術を学ぶもので、併せて、①日本の気候風土に合った建築技術を学ぶ、②地場産(国産)木材の良さを知る、③古民家の持つ本当の

豊かさを学ぶ、④地場産木材を利用することで森の再生を進め、地球環境を守る活動につなげることを目的としている。講習・実習は各回1泊2日の全10回で、受講料は18万円。

## 棚田倶楽部での活動

大山千枚田を見下ろす高台に、地域資源の総合管理施設として「棚田倶楽部」(市施設、保存会が管理受託)があり、来訪者の休息や会合・会議など多目的活動拠点となっている。

## ■ ネック克服の仕組みと工夫

「棚田オーナー制度」が地区の耕作放棄地再生の基礎となっている。

「棚田」は大型機械の導入ができません、作業の多くは人力に頼らざるをえな

いので非効率であり、そのため農村の過疎化や減反政策により、まず一番に耕作が放棄される。地元にとっては負の遺産であるが、都市住民にとっては、美しい農景観の中で農業体験や低農薬の安全な米を収穫することができ、また、それにより農家の農業収益も3倍ほどになり、価値ある資産に変わる。

大山千枚田の他に小金、南小金、山入、川代の4集落においても、中山間地域等活性化協議会の指導により活動が広がっている。

## ■ 新しい役割と魅力

東京から一番近い「棚田」を媒体とした都市住民と地元の交流は、初期段階





家づくり体験塾による井上さん宅の工事現場



地場木材を利用



家づくり体験塾で技術や風土環境を学ぶ実習生

の参加・体験・交流から、さまざまなメニューの拡充・活動の深まりやステップアップにより、農業振興や地域の活性化、農文化の学習や継承活動への展開、ふるさと回帰としての移住や定住促進などの契機となっている。

地元農家の農業継続・所得拡大、酒などの加工食品産業振興等はもちろん、実際、都市住民である棚田オーナー

が日帰り体験・交流の短期滞在を通じて移住するケースも20～30人と増えてきている。

鴨川市ふるさと回帰支援センターでは、こうした都市住民への地域情報はもとより空き家・空き地情報、就農情報、相互連携に向けた人材情報などの提供、帰農者セミナーや農的暮らしセミナー・相談会・体験談イベント

などの開催を行い、都市住民と地元住民の融合による新たなコミュニティ形成を支援している。

また、体験メニューの「家づくり体験塾」を経て、実際に家を作り、都市から移住するケースもあり、田園ライフ・農あるライフスタイル実現に向けた首都圏近郊地区として今後の展開が期待される。

#### プロジェクト概要

事業名：鴨川市棚田オーナー制度  
 制度発足：平成12年3月  
 補助事業等：平成15年「鴨川市棚田農業特区」認定  
 実施地区：大山千枚田、山入・南小町・川代柿木代・星ヶ畑・嶺岡の棚田  
 実施主体：市・NPO法人大山千枚田保存会・鴨川市中山間地域等活性化協議会

運営管理：NPO法人大山千枚田保存会・鴨川市中山間地域等活性化協議会  
 施設等：棚田倶楽部（鴨川市地域資源総合管理施設、市談話室、研修室、休憩施設、トイレ・更衣室、シャワー室、販売コーナーなど、NPO法人大山千枚田保存会へ管理依託）

●千葉県指定名勝「大山千枚田」概要  
 所在地：鴨川市釜沼  
 指定面積：4万6077m<sup>2</sup>（公募面積）  
 指定年：平成14年3月29日